

ニューロダイバーシティから合理的配慮を考える

坂井 聡(香川大学 教育学部 教授)

講師略歴

専門は特別支援教育。特別支援学校の教諭から 2005 年に香川大学へ、現在バリアフリー支援室室長、香川大学教育学部附属特別支援学校校長を兼務。ソフトバンク等との企業とアプリの共同研究を実施している。

プログラム概要

2024 年の合理的配慮義務化に伴い、大学には 5.5 万人の障害学生(68%が精神・発達障害)が在籍しています。しかし、従来の「医学モデル(個人の治療)」に基づく属人的な個別対応は限界を迎え、教職員の疲弊と、不適応学生の増加という深刻な事態を招いています。

本研修は、支援のパラダイムを「ICF(環境調整)」へ転換する全教職員向け実践プログラムです。ASD や ADHD の特性を強みとするニューロダイバーシティの視点を持ち、講義資料の事前 PDF 配布、Teams 等での非同期チャット、レポート評価への代替など、ICT を活用したユニバーサルデザイン(UD)を習得します。

研修による教員の多忙化リスクに対しては、UD 化が結果的に個別対応の業務削減に繋がる方法を考え、全学体制でインクルーシブなキャンパスを実現するための方法を考えます。

準備物・事前課題

なし

主な受講対象者

1. 障害のある学生の支援に関わる教職員
2. 障害のある学生の支援に関心のある方

到達目標

1. ニューロダイバーシティの考え方を説明できる。
2. 各組織が抱える困難を社会モデルで説明できる。
3. 他の教職員と協力して必要な支援について合理的配慮の視点から考えることができる。